

相愛大学音楽学部 2025年大阪・関西万博 関連演奏会

アドルフ・サックスへの讃歌

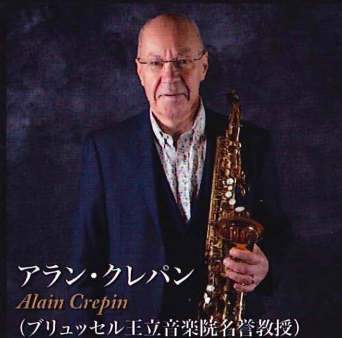
Celebrating Adolphe Sax

サクソフォンの発明者アドルフ・サックスの生誕地、ベルギー。

現代ベルギーを代表する2人のサクソフォン奏者が、それぞれの自作を携え来日！



ミ・ベモル サクソフォンアンサンブル
Mi-Bémol Saxophone Ensemble



アラン・クレパン
Alain Crepin
(ブリュッセル王立音楽院名誉教授)



シモン・ディリック
Simon Diricq
(ブリュッセル王立音楽院教授)

Program

久石譲：風の伝説 ～ となりのトトロ～ アシタカとサン

Joe Hisaishi : Nausicaä of the Valley of the Wind ~ My Neighbor Totoro ~ Ashitaka and San

アントニオ・ヴィヴァルディ：《四季》より 協奏曲第2番 ト短調 RV315 「夏」

Antonio Vivaldi : Le quattro stagioni, Concerto No.2 in Sol minore, RV 315, L'Estate

シモン・ディリック：ダニング＝クルーガー*

Simon Diricq : L'Effet Dunning-Kruger

アラン・クレパン：サックス・イン・ザ・シティ**

サックスフライト**

Alain Crepin : Sax in the City
Saxflight

*=シモン・ディリック(サクソフォン)ソロ

**=アラン・クレパン(サクソフォン)ソロ

2025年

5月29日(木) 開演18:30 (開場18:10)

相愛大学 南港ホール

大阪市住之江区南港中4丁目4-1

Osaka Metro ニュートラム「ポートタウン東」駅より徒歩約5分

入場無料 (要事前申込み)

※全席自由

※未就学児の入場はご遠慮ください

お申込みはこちらから▶



相愛学園創立140周年記念事業

主催：相愛大学音楽学部・相愛大学国際交流部

お問い合わせ：音楽学科合同研究室 ☎06-6612-6245 (平日9:00-17:00) 📧ongakugakubu@soai.ac.jp

140
Since
1888
th
Anniversary



アラン・クレパン

Alain Crepin

多方面で活躍する音楽家アラン・クレパンは1954年、ベルギーのメテに生まれた。ディナン音楽学校でサクソフォン、チェロ、ピアノを学ぶ。その後ブリュッセル王立音楽院にてフランソワ・ダネールに師事し、サクソ

フォン、室内楽、和声法、対位法、フーガ、管弦楽法、指揮を学んだ。

1981年よりブリュッセル王立音楽院教授を務め、現在、同院名誉教授。また、ルクセンブルク公国・エシュ=シュル=アルゼット音楽院でも指揮、管弦楽法の教鞭を執った。1983年よりベルギー軍楽隊楽長、1985年より王立ベルギー空軍吹奏楽団の音楽監督を務めた。

作曲家として主に管楽器作品を多数残しているほか、独奏者、指揮者として60枚以上のCDをレコーディングしている。ディナン国際サクソフォンコンコールの委員長をはじめ、多くの国際コンテストで審査員を務め、世界中からマスタークラスに招かれている。また、著名なピアニスト、イリアヌ・レイエスと共に定期的によりサイタルで演奏している。加えて、様々な世界コンgresにおいて客演指揮者として迎えられ、偉大なサクソフォン奏者たちと共に共演した。そして、ブリュッセル王立音楽院のインターナショナル・サクソフォンアンサンブルも創設し、指揮している。



シモン・ディリック

Simon Diricq

シモン・ディリックはパリ国立高等音楽院を卒業した最初のベルギー人サクソフォン奏者である。2010年、名誉あるディナン国際サクソフォンコンクールで優勝。その他にもデクシア第1位（ブリュッセル、2002年）、

ナント第1位（2004年）、タラゴナ第2位（スペイン、2004年）、ロータリー国際大会（リール、2005年）、UFAM国際コンクール1等賞（パリ、2006年）、パーチェム・イン・テリス国際音楽コンクール入賞（パイロイト、2007年）、ベニドルム国際コンクール第1位（2010年）など数々のコンクールで聴衆に感銘を与えてきた。ソリストとして、サンパウロ交響楽団、リエージュ王立フィルハーモニー管弦楽団、ベルギー空軍吹奏楽団、ベルギー王立ギデ交響吹奏楽団、ブリュッセル・オーケストラ・アンサンブル、トゥールネ音楽礼拝堂、ワロン室内管弦楽団、ブリュッセル・フィルハーモニック交響楽団などと共演。また、パリ国立高等音楽院出身の9人のサクソフォン奏者による独創的なアンサンブル「Ensemble Squillante」のメンバーであるほか、ピアニストのフラヴィアン・カサッチオとのデュオや、クラリネット奏者シャルル・ミシェルスと共に「Duo Ypsilon」として活動している。

アドルフ・サクスの生誕地ディナンの名誉市民であり、ブリュッセル王立音楽院の教授を務めている。

ミ・ベモル サクソフォンアンサンブル

Mi-Bémol Saxophone Ensemble

「ミ・ベモル」とはフランス語で「ミのフラット」を意味しています。サクソフォンは移調楽器といわれ、アルトサックスやバリトンサックスで「ド」の音を演奏すれば実音で「ミのフラット」が鳴るように作られているところが、このアンサンブル名の由来です。ソプラノ、アルト、テナー、バリトン、バス、コントラバスの6種類のサクソフォンだけによるアンサンブルで、クラシックを中心にジャズやポップス、演歌に至るまで様々なジャンルの音楽をレパートリーにしています。1989年に前田昌宏の呼びかけにより結成されて以来、定期演奏会をはじめ各地での依頼演奏、FMやBS放送への出演など幅広い活動を行い、豊かな音楽性、そして繊細かつダイナミックな演奏は数多くのファンを魅了してきました。更にその活動は遠く海外にも及び、香港・上海・タイ・マレーシアといったアジア諸国から、カーネギーホール（ニューヨーク）を含むアメリカ・カナダ、さらにフランス・イタリア・スペイン・スロヴェニアなど欧州まで、コンサートツアーを幾度となく重ねています。各地のホールや教会など大きな会場のほか、公園やぶどう畑でも演奏会を開き、身近で心のふれあいを通じた国際交流を果たしています。また、YouTubeにアップされた映像には延べ150万回を超えるアクセスがあり、世界中から感動のコメントが寄せられています。メンバーのうち4名は大学音楽学部で、また2名は高校音楽科でサクソフォンの専門教育を行っているほか、全員が音楽教室や講習会などを通してその高度な音楽表現やアンサンブルテクニックを広めています。一方、バリ音楽院の歴代教授ドゥファイエ氏やドゥラング氏を招聘してのりサイタルの主催、高校生との共演、講習会の開催など多方面にわたる文化活動、青少年の育成、生涯教育にも寄与しています。また、これまでの大小約100曲に及ぶミ・ベモルによる編曲・出版譜は、国内はもとより海外においてもその高い信頼性が評価され、名演奏家たちによる演奏会やフェスティバルに数多く用いられているほか、ウィーン国立音楽大学図書館にも所蔵されています。近年の主な活動として、創立25周年を迎えた2014年には、東京・大阪・名古屋での公演やベルギー・スウェーデンへの演奏旅行に加え、日本初となる「日本ラージサクソフォンアンサンブルサミット」をいずみホールにおいて主催しました。翌2015年にはストラスブル（フランス）で開催された世界サクソフォンコンgresでの演奏が絶賛されたほか、「100人によるサクソフォンオーケストラ」を中心となって組織し、各国から集まった奏者と共にその演奏会を成功させました。2019年には創立30周年を記念して国内外で多数の事業を展開、ミ・ベモルが主導的な役割を果たし続けてきたこのジャンルに改めて世界的な関心が集まっています。そして2024年、ミ・ベモルは創立35周年を迎えました。



www.mi-bemol.com

「EXPO2025 大阪・関西万博」でも共演コンサートが決定！
5月28日（水）19:30～ EXPOナショナルデーホールにて

▶詳細はミ・ベモルウェブサイトをご覧ください

